

# 大隅地域感染症情報 2018

第37週報（9月10日～9月16日）  
大隅地域振興局保健福祉環境部

## ○定点医療機関からの定点当たり報告数

・感染性胃腸炎について、鹿屋保健所、志布志保健所ともに先週より増加しています。  
・RSウイルス感染症は先週より減少しています。RSウイルス感染は乳幼児だけでなく高齢者でも重症の下気道感染を起こす原因となり、特に長期療養施設では集団発生を起こす場合があるので注意が必要です。

疾病	警報レベル 開始/終息 基準値	注意報 基準値	鹿屋保健所管内推移				志布志保健所管内推移				大隅全体	県全体
			34週	35週	36週	37週	34週	35週	36週	37週	37週	36週
インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.40	0.00	0.00	0.12
RSウイルス感染症	-	-	1.20	2.40	4.00	2.60	1.00	3.00	4.67	2.67	2.63	5.31
咽頭結膜熱	3.00/1.00	-	0.40	1.40	2.20	1.80	1.33	0.67	0.00	1.00	1.50	0.96
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	-	0.60	1.20	1.80	0.40	1.33	0.67	0.33	0.33	0.38	1.91
感染性胃腸炎	20.00/12.00	-	10.20	10.20	8.60	10.40	5.67	8.33	4.33	10.67	10.50	6.31
水痘	2.00/1.00	1.00	0.00	0.00	0.40	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.16
手足口病	5.00/2.00	-	1.00	0.60	0.60	1.20	0.33	1.67	0.00	0.67	1.00	0.73
伝染性紅斑	2.00/1.00	-	0.00	0.00	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.13
突発性発疹	-	-	0.00	0.00	1.00	0.40	0.67	1.00	0.67	0.33	0.38	0.47
ヘルパンギーナ	6.00/2.00	-	0.60	0.40	0.60	1.00	0.00	0.33	0.33	0.33	0.75	1.29
流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	0.40	0.40	0.00	0.60	0.00	0.67	0.67	0.33	0.50	0.22
急性出血性結膜熱	1.00/0.1	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.71
流行性角膜炎	8.00/4.00	-	0.00	2.00	4.00	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
基幹定点疾患			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

■ 警報基準値以上      ■ 注意報基準値以上

## ○感染性胃腸炎について

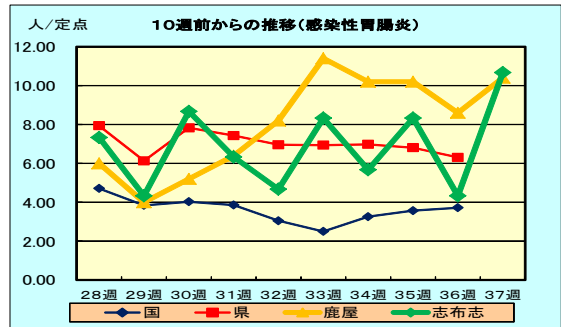
【警報開始基準値 20.0, 警報終息基準値 12.0】

(感染性胃腸炎一図1) ※第37週は鹿屋・志布志のみ掲載

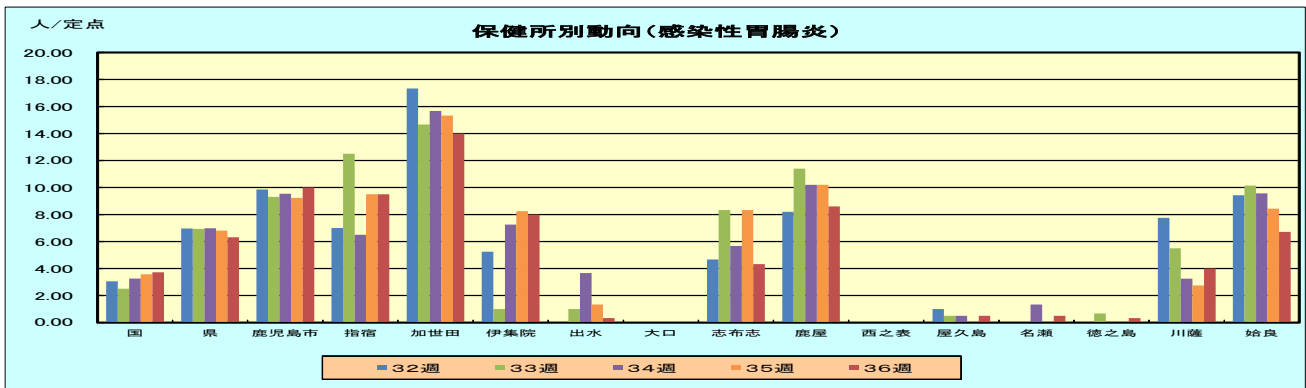
感染性胃腸炎の発生状況は、  
鹿屋保健所管内からは52名(定点当たり報告数10.40)  
の報告がありました。

志布志保健所管内からは32名(定点当たり報告数  
10.67)の報告がありました。

年齢別では、1歳が最多でした。



(感染性胃腸炎一図2) 県内保健所別感染性胃腸炎報告



## ○RS ウイルス感染症について

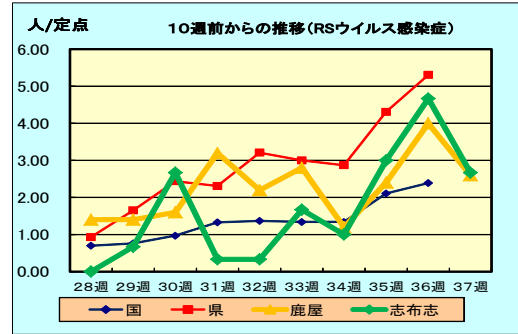
RSウイルス感染症の発生状況は、

鹿屋保健所管内からは13名（定点当たり報告数 2.60）の報告がありました。

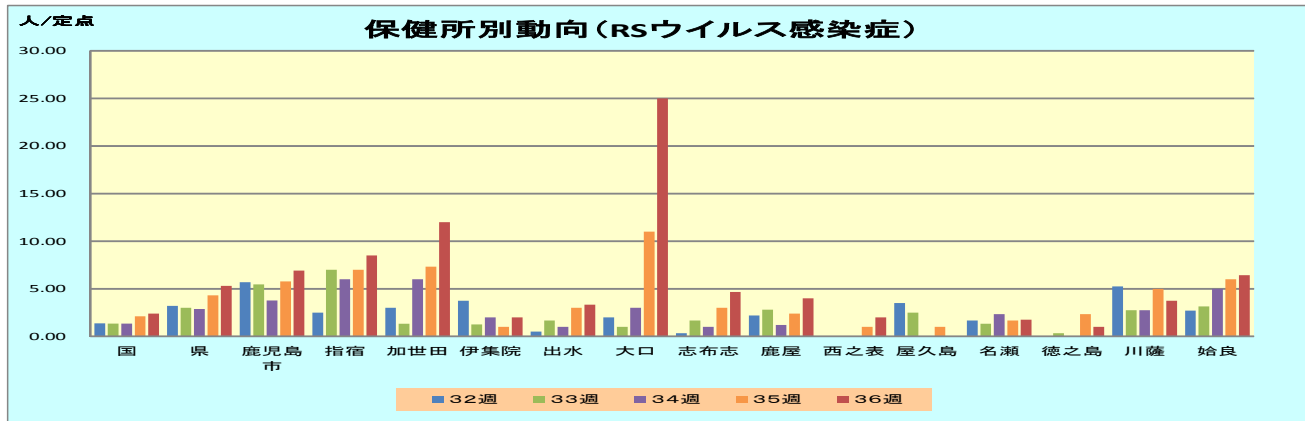
志布志保健所管内からは8名（定点当たり報告数 2.67）の報告がありました。

年齢別では、大多数が3歳以下でした。

（RS ウイルス感染症一図1）※第37週は鹿屋・志布志のみ掲載



（RS ウイルス感染症一図2）県内保健所別 RS ウイルス感染症報告



### RS ウイルス感染症とは？

RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。

感染力が強く多くの乳幼児の代表的な呼吸器感染症ですが、重症化して入院が必要となる場合もあり、注意が必要です。

### RS ウイルス感染症の症状

発熱、鼻水などの症状が数日続きます。多くは軽症で済みますが、重症化すると喘鳴が出る、呼吸困難となるなどの症状が現れます。特に乳児期早期に感染した場合は細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こす事があります。

また、高齢者（特に慢性呼吸器・心疾患等の基礎疾患がある方）でも重症の下気道感染を起こす原因となり、特に長期療養施設内での集団発生を起こす場合があります。

### 日常でできる予防対策

RSウイルス感染症の感染経路は「飛沫感染」と「接触感染」です。

感染経路を断つために、次のことを心がけてください。

- ・こまめに手洗い  
帰宅時、調理前、排泄後などこまめに
- ・アルコールなどによる消毒  
手指の他、おもちゃやおしゃぶり、手すりなどを清潔に
- ・咳エチケット  
咳やくしゃみを人に向けて発しない、症状のある人はマスク着用
- ・人混みを避ける  
体調の悪い人や人混みに近づかない  
また、咳等の症状がある年長児や成人は可能な限り0～1歳児との接触を避けること